

## 晋州保健大学との交流プログラム実施報告

大西真由美<sup>1</sup>・中尾理恵子<sup>1</sup>・森藤香奈子<sup>1</sup>・山口 智美<sup>1</sup>  
横尾 誠一<sup>1</sup>・折口 智樹<sup>1</sup>・菊池 泰樹<sup>1</sup>・中島 久良<sup>1</sup>

保健学研究 21(2): 93-98, 2009

(2009年2月20日受付)  
(2009年3月31日受理)

## はじめに

長崎大学医学部保健学科（以下、当学科）と韓国晋州保健大学（以下、晋州）との学術交流は、1995年から開始され、教員の共同研究、ならびにホームステイを中心とした学生交流による異文化体験学習を継続してきている。2008年7月10日-13日にかけて、晋州より、学生19名と教員2名の受入を行い、3泊4日の交流を行ったので報告すると共に、過去の交流実績を踏まえ、今後の大学間交流の課題について考察する。

## I. 2008年度交流実績

## 1. 受入準備

2008年度は、晋州より、当学科に学生ならびに教員を受け入れるために準備を行った（表1）。

## ＜プロジェクト・チーム＞

当学科側受入プロジェクト・チームを設置することとし、看護学専攻各講座より1名ずつ参加した。メンバーは、中尾理恵子、森藤香奈子、山口智美、横尾誠一と教育研究委員で構成した（敬称略）。

## ＜ホームステイ＞

ホームステイ受入については、学生に対し、掲示を行うと同時に、募集アンケートを配布し、受け入れ可能性について打診した。教員に対しても同様に募集アンケートを配布し、協力者を募った。

## ＜プログラム＞

晋州側からは、施設見学等に関し、特に新たな希望はなく、2006年のプログラムと同様の内容で良いとのことであった。施設見学先は、長崎大学医学部・歯学部附属

表1. 晋州保健大学側との連絡調整ならびに長崎大学医学部保健学科での準備

日付	連絡調整内容	準備内容
5月16日	晋州保健大学の崔先生に、メールにて、2008年度の交流プログラムについて打診。	
5月29日	崔先生に、電話にて、交流プログラム実施について確認（7月10日-13日の日程で長崎を訪問する方向で、学内検討中）。	教育研究委員長より、看護学専攻各講座から受入プロジェクトメンバーの推薦に関して配信。
6月9日	崔先生より、7月10日-13日に長崎を訪問することで、学内決定された旨、回答。26人（女子：25人、男子：1人）の学生が交流プログラム参加希望である旨も併せて報告があり、受入可否について打診。	
6月10日	崔先生より、参加希望学生が20人（女子：19人、男子：1人）になった旨、連絡。引率教員は、当初1人の予定であったが、共同研究打合せの目的で、もう一人教員の参加希望がある旨、連絡。	本学側共同研究者である中尾理恵子講師に、共同研究打合せに関する準備を依頼。
6月11日		学生ならびに教員に対し、ホームステイ受入依頼。
6月12日	引率教員の一人である姜教授から、講演いただける旨、了解済。	講演テーマ「韓国における介護保険（老人長期療養保険制度）の導入」を依頼。
6月17日	晋州側で来日のためのジェットフォイル「ビートル」（釜山-博多）の予約済との連絡。博多から長崎までの陸路移動の手配は、晋州側で手配していただきたい旨、打診し、了解済。	長崎大学医学部・歯学部附属病院ならびに恵の丘長崎原爆ホームへ見学受入依頼を送付。
6月18日		第1回プロジェクト担当者会議。受入日程、プログラム内容、施設見学調整、歓迎式・送別式（日時、会場）、予算ならびに寄付金確保、通訳手配、ウェルカム・バック準備、引率教員宿泊、ホストの確保について検討（この時点で10人分のみ確保）。保健学科教員への寄付依頼。
7月1日	参加希望学生が19人（女子：18人、男子：1人）になった旨の連絡ならびに参加者名簿の送付。	
7月2日		第2回プロジェクト担当者会議。受入期間中の行程、会場設定、緊急時医療対応、写真撮影等について検討。
7月7日		ホスト学生へのオリエンテーション
7月8日	姜教授による講演資料の送付。	

活動報告

表2. プログラム

日時	内容	場所
<第1日目> 7月10日(木)	8:40 釜山出発 11:40 福岡着, 昼食後, 長崎へバス移動(晋州側手配) 16:00 長崎大学到着 歓迎式(学科長挨拶, 引率教授挨拶, 韓国学生代表挨拶, ホスト代表挨拶, オリエンテーション, 記念撮影) 16:20~17:20 講演会「韓国における介護保険(老人長期療養保険制度)の導入」 講師: 姜末順(晋州保健大学教授) 17:30~18:30 ウェルカムパーティ(自己紹介, ホストとの顔合わせ)	101講義室 101講義室 大学院生講義室
<第2日目> 7月11日(金)	9:00~9:45 学内オリエンテーション(長崎観光ビデオ上映, 学内見学) 10:00~11:15 大学病院見学(病院概要説明, 病棟等見学, 質疑応答) 11:30~12:30 昼食 12:45~13:15 恵の丘長崎原爆ホームへ移動(民間バス借上) 13:30~14:30 恵の丘長崎原爆ホーム見学 14:45~15:15 浦上周辺へ移動(民間バス借上) 15:30~17:30 浦上周辺見学(浦上天主堂, 平和公園, 原爆資料館) 17:45~18:00 保健学科へ移動(民間バス借上), ホストと合流, 学生解散 18:15~19:15 研究打合せ	会議室, 演習室等 医学部・歯学部附属病院 医学部生協食堂 大学院生講義室
<第3日目> 7月12日(土)	10:00 市内見学(ホスト学生と行動) 18:00~20:00 フェアウェルパーティ, 送別式(学科長挨拶, 韓国学生代表挨拶, ホスト代表挨拶, 交流プログラム修了証授与)	
<第4日目> 7月13日(日)	7:30 バス待ち合わせ場所集合 8:00 お見送り, 福岡へバス移動(晋州側手配) 11:15 福岡発	長崎大学医学部・ 歯学部附属病院前

病院ならびに恵の丘長崎原爆ホームとした(表2)。

帰路の福岡港から釜山へのジェットフォイルが11:15発であるため, 最終日は, 8:00には長崎を出発する必要があり, フェアウェルパーティならびに送別式を3日目の夜に実施することとした。従って, 最終日は, 7:30に長崎大学医学部・歯学部附属病院前に集合し, 見送りのみ行った。

<ウェルカム・パック>

ウェルカム・パックとして, 名札, 交流プログラムのスケジュール, 名簿, 長崎市内地図ならびに市内見学用資料等を準備した。地図ならびに韓国語の市内見学資料については, 社団法人長崎国際観光コンベンション協会より, 無料で交付を受けた。

<施設見学>

第2日目の施設見学のための移動については, 今回は参加人数が多く, また大学ならびに附属病院のバスを利用することが困難な状況であったため, 民間バスを借上げ, 対応した。

施設見学にあたっては, 音のしない靴を準備することを, 事前に晋州側に連絡をした。

<通訳>

沖本声さん, 本学職員の坪井路子さん, 長崎大学留学中の金宗煥さんならびにキム・ダへさんに通訳を依頼した。沖本さんと金宗煥さんは, 主に講演会, 施設見学, 研究打合せにおける通訳を担当し, 坪井さんは歓迎式, ウェルカムパーティ, フェアウェルパーティ, 送別式の通訳, キム・ダへさんは3日目の市内見学における通訳

を担当した。

<予算, 寄付金>

教育後援会, 看護学専攻助成金, 輔仁会に資金協力依頼を行った。その他, ロータリークラブ, ライオンズクラブ, 国際交流館等に, 現物支給も含めて協力を依頼したが, 実施までの期間が短く, 具体的な支援を得るには至らなかった。しかし, プログラム実施の前年度中に打診をすることで, 予算計上の可能性があることが明らかになった。輔仁会からも前年度中に相談することで, 協力額の増額の可能性が示された。

2. 交流の実際

1) ホームステイ

晋州側学生とホスト一覧は表3の通りである。学部生11人(1年生:1人, 2年生:0人, 3年生:9人, 4年生:1人), 教員ならびに大学院生6人で, 19人の学生をホストした。過去の交流実績と比較し, 晋州側からの参加希望者が多いにもかかわらず, ホスト学生が少ないため, 教員がホストする学生数が多くなり, 教員の負担が増大した。一方, ホストとして協力した学生の中には一人で複数の学生をホストする, あるいは全日程を対応できない場合は友人同士で協力して対応するなど, 工夫し, 積極的に参加した。

ホストする学生との組み合わせについては, 2007年に晋州を訪れた学生が, その際に晋州側でホストを務めた学生を今回ホストできるように配慮した。

表3. 晋州保健大学学生とホスト学生名簿

晋州保健大学			長崎大学医学部保健学科		
1	イ ミン ジョン	Ns3	尊野愛子	Ns3	
2	ジュ ヨン ボ	Ns3	結城ひろ子	Ns3	
			本多文	Ns3	
3	カン ヒョン ジン	Ns2	増田ひかり	Ns3	
4	キム ス ヒョン	Ns2	永井幸代	Ns3	
5	ド オン ファ	Ns2	尾籠晃子	Ns3	
			田村和子	Ns3	
6	ムン チョ ロン	Ns2	三浦亜由美	Ns4	
7	ユン ジョン ジン	Ns2	大石和代	教員	
8	イ ハ ナ	Ns2			
9	ジョン ユ リ	Ns2			
10	チェ ウ トウム	Ns2	長岡清子	大学院生	
11	ハ ジ ヨン	Ns2	入山茂美	教員	
12	カン ジ ヘ	Ns1	松本 正	教員	
13	コン サン ジェ	Ns1			
14	キム ソン フン	Ns1	日下部恵	OT3	
			西岡成郎	Ns3	
15	ムン クモク	Ns1	澤井詩織	Ns1	
16	ジョン スニョ	Ns1	楠葉葉子	教員	
17	ジュ ゼ ヒ	Ns1			
18	チェ ウニョン	Ns1	大西真由美	教員	
19	ファン ガ ヒ	Ns1			
	カン マル スン	教員			
	キム テ ギョン	教員			

## 2) 第1日目

晋州側一行が保健学科到着後、歓迎式ならびに玄関前での記念撮影を行った。その後、姜末順教授による特別講演「韓国における介護保険（老人長期療養保険制度）の導入」を聴講した。韓国では、2008年7月から老人長期療養保険制度が開始され、韓国における高齢者の健康を取り巻く状況と課題、その対応に関する講演であった。日本の介護保険制度を参考に作られたという韓国の老人長期療養保険制度は、類似のシステムであるが、韓国では日本以上に速く高齢化が進行しているため、課題も大きく、また益々看護職の役割が重要視されることが述べられた。

## 3) 第2日目

午前中に、保健学科内で、長崎市さるく観光課から借りた長崎観光ビデオと長崎大学の紹介ムービーを、いずれも韓国語版で上映し、長崎ならびに長崎大学の紹介を行った。その後、保健学科の演習室等ならびに新病院を見学した。

医学部生協食堂での昼食後、民間借上げバスにて、恵の丘長崎原爆ホームへ移動し、同ホームの見学を行った。その後、浦上天主堂、平和公園へ移動し、平和記念像ならびに在日韓国人慰霊碑において献花を行った。

## 4) 第3日目

午前中は、大浦天主堂、グラバー園の視察をした後、昼食から夜のフェアウェルパーティまで自由行動とした。ホスト学生の他、3日目だけ参加した学生もいた。また、今回のホスト学生からの連絡により、過去に晋州を訪問した卒業生の参加も得られた。

市内見学用として、参加者に長崎電気軌道一日乗車券を配布した。

送別式では、晋州側学生、本学学生に本交流プログラムへの参加修了証を授与した。

## 5) 第4日目（最終日）

早朝の集合時間であったが、附属病院前に集合し、バスで福岡へ向かう一行を見送った。

バスが福岡に到着した後、ジェットフォイルに乗り込むまでの間に昼食を取る時間がなかったため、こちらで弁当を手配した。

## 6) 共同研究打合せ

第2日目の18:15から約2時間、共同研究打合せを行った。

中尾理恵子講師と姜教授との共同研究による「日・韓看護大学生の喫煙の状況と意識調査」に関するプレゼンテーションの後、分析結果ならびに考察についてディスカッションを行った。本研究について、「保健学研究」に論文発表することで合意した。

楠葉洋子准教授より、新たな共同研究テーマとして、「青年期にある看護学生が考える“良い死の迎え方”に関する研究」についてプレゼンテーションが行われた。従来から晋州側から出されている希望共同研究テーマのひとつである「ホスピス」に係る課題等と併せて、今後共同研究の可能性について検討することとした。

## 7) 「長崎大学と晋州保健大学との間における学術交流協定に基づく学生交流」に係る打合せ

晋州側からは、姜教授と金教授、当学科からは大石専攻主任と大西、ならびに通訳として金宗煥さんの5人でミーティングを行った。

2007年12月に、標記に関し覚書を交わしたところであるが、具体的に晋州側から学生を派遣する場合の手続き、選考基準、教育内容、評価等について質問があった。晋州側としては、3か月から半年程度の交流希望が提示された。

当学科としては、具体的に選考基準や教育内容を決定している訳ではないが、晋州側として具体的な交流時期や人数等を計画しているのであれば、それに合わせて基準等を整備し、対応する努力をする旨を伝えた。

当学科で晋州からの学生を受け入れる場合、「特別聴講」の枠で対応可能であることを伝えた。現時点では、具体的な交流計画がある訳ではないとのことであったので、今後も双方で連絡を取り合いながら、必要性が生じた際に対応する努力をすることとした。

## 3. 交流後の対応

## 1) ホスト学生による評価

7月14日（月）に、ホスト学生ならびに市内見学に参

活動報告

表4. 参加学生の交流プログラム参加前後の気持ちの変化 (n=12)

参加前の気持ち	参加後の気持ち	人数 (%)
積極的に参加したい	とてもよかった	6 (50%)
どちらかと言えば参加したい	とてもよかった	3 (25%)
どちらかと言えば参加したい	よかった	3 (25%)

表5. 参加学生感想・意見 (n=12, 複数回答)

<p>1. 交流プログラムに参加してよかったこと, 有意義だったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲良くなれた. (1人)</li> <li>・実際に英語で会話した/英語の勉強になった/英語の大切さを理解できた. (6人)</li> <li>・韓国の文化・生活を理解できた. (3人)</li> <li>・晋州保健大学・教授の講演は, 晋州保健大学のことだけでなく, 韓国の医療の現状, 看護師の社会的地位についても知ることができ, 日本との違いなどを考える機会となった. (1人)</li> <li>・韓国と価値観, 服装, 日常生活の異なる点を学ぶことができた. (1人)</li> <li>・長崎の良さを再確認できた/日本(長崎)の文化についてより深く理解できた. (2人)</li> <li>・韓国に友達ができた. (1人)</li> <li>・交流を深めるために, 期間が丁度良かった. (1人)</li> <li>・朝から夜まで一緒にいることができ, 沢山の話ができた. (1人)</li> <li>・自由時間で, 自分がホストした学生以外の学生とも仲良くなることができた. (1人)</li> <li>・他の学年の先輩・後輩とも仲良くなることができた. (1人)</li> <li>・同級生も交えてホームパーティをしたのは楽しかった. (1人)</li> <li>・ご飯がとてもおいしかった. バイキングや外に食べに行った. (1人)</li> <li>・初めのパーティで, ホームステイする学生と知り合えて良かったが, 日本人と韓国人の交流があまりなかったもので, 例えばゲームなど, 交流できる工夫があった方が良かった. (1人)</li> </ul>
<p>2. 交流プログラムに参加して困ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国と日本の物価の違いや, 晋州学生の夜の活動への要求が大きいため, 対応に困った. (2人)</li> <li>・英語による意思疎通が困難だった. (2人)</li> <li>・韓国語や英語の勉強会や冊子があれば良かった. (1人)</li> <li>・もう少し長くいてほしかった/一緒に行動する自由時間がもっとほしかった. (4人)</li> <li>・ホストとゲストの組み合わせは学生同士の方が良い. (1人)</li> <li>・テストと交流プログラムの日程が重なってしまったこと. (1人)</li> <li>・ウェルカムパーティのとき, 日本人学生からの出し物の準備ができておらず, 直前で慌てて準備する形となり, 困った. 次回からは事前に準備しておくとういと思う. (2人)</li> </ul>
<p>3. 今後, 改善した方がよいと思うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方がホストするのは時間的にも厳しいので, もっと学生からホストを集めた方がよい. (3人)</li> <li>・ホストとゲストのマッチングの考慮/ホスト学生との事前の情報交換があればよかった. (2人)</li> <li>・学生/友人からの紹介があると, 他の学生も受け入れや協力がしやすいではないか. (2人)</li> <li>・大変ですが, 実行委員を学生にするのはいかがですか? (1人)</li> <li>・授業を通して, 今回のプログラムを報告するよう機会があると良い. 参加する前は, 全然イメージできなかったもので, 情報が必要だった. (2人)</li> <li>・日程をもう少し早く知らせてほしい. (3人)</li> <li>・初日の講演は, 時間通りに進行できればよかったと思った. (1人)</li> <li>・出発の朝の時間が凄く早かった. (1人)</li> </ul>
<p>4. その他(交流プログラムに関する意見, コメント, 感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホストが3年生ばかりだったので, 1・2年生へもっと呼びかけをするとよかったのではないかと. (1人)</li> <li>・他の日本人ホスト学生の対応の仕方を見ていて, 日本人らしい気遣いなど, 勉強になった. (1人)</li> <li>・毎日がとても新鮮で, 自分の価値観も変わったと思う. これからもっと視野を広げて学んでいきたいと, 向上心を持つことができた. (1人)</li> <li>・楽しかった/貴重な経験/また参加したい/交流プログラムを今後も是非続けてほしい. (5人)</li> <li>・事前に, 日本食(和食)のお勧めスポットや, 日本の文化を伝えられる場所を知りたい. (2人)</li> </ul>

加した学生による評価を実施した。交流プログラム参加の感想・意見を聴取すると共に、自記式無記名質問紙への回答を得た(表4, 5)。質問紙は、12人に配布し、12人から回答が得られた。表5の表現は、できるだけ回答者の表現を忠実に記述した。

学生達から、ホスト募集の際に、「何をするのが具体的にわかるような写真入りのプログラム紹介をしても

らえると、更にモチベーションが高まると思う」との意見があった。ホスト学生の中から有志を募り、「晋州交流プログラム写真プロジェクト」として、交流期間中に撮影した写真を持ち寄り、写真集(CD)、次回以降に向けてのプログラム紹介用パワーポイント、学内掲示用パネルを作成した。



## 活動報告

表6. 収支報告

収 入		支 出	
教育後援会	200,000	ウェルカムパーティ, フェアウェルパーティ	167,274
教員寄付	200,000	昼食代, 茶菓	57,814
輔仁会	100,000	引率教員とのミーティング, 研究打合せ	57,717
看護学専攻助成金	100,000	引率教員宿泊	45,317
前回からの繰越金	36,877	通訳謝金	140,000
		ホスト謝礼	40,000
		交通費 (バス借上げ, バス駐車場, 1日乗車券)	58,540
		市内見学	12,370
		献花	6,000
		その他 (文房具等)	38,844
		繰越金	13,001
計	636,877	計	636,877

### 2) 礼状

長崎大学医学部・歯学部附属病院, 恵の丘長崎原爆ホーム, 通訳, 資金協力元である輔仁会ならびに教育後援会に礼状を送付した(7月14日)。

寄付を得られた教員に対して, 8月1日のプロジェクト・チーム総括会議終了後に, 収支報告と共に礼状を送付した。

### 3) 「外国人研究員等受入報告書」の提出

外国人研究者受入を行った場合, 学術協力課学術交流係に対し, 標記報告書を提出する必要がある, 今回は特別講演の演者であった姜教授に関して報告書を提出した(7月15日)。姜教授に関しては, 同行者として氏名, 性別, 職位, 研究分野について報告した。

### 4. 収支報告

収支報告は表6の通りである。

今回は, これまでで最高人数である19人の学生と2人の教員を受け入れたこと, 民間バスを借り上げたことに伴い, 支出予定額が増えたため, ウェルカムパーティやフェアウェルパーティはリーズナブルな内容にする等, これら以外の部分で経費削減できるものはできるだけ支出を抑えるように努めた。

## II. 今後の課題

学年によっては, 本プログラム実施が, 試験や課題提出の日程と前後したことが, ホストを希望する学生数が少なかった一因と考えられる。今後は, 年度初めのオリエンテーション等で, 大凡の年間日程やプログラム内容について学生に情報提供し, 本プログラムの意義について理解を深める機会が必要である。学生に対する4月のオリエンテーション時に, 本交流プログラムを含む海外フィールド研修ならびに異文化理解プログラムに関する大凡の時期と内容を提示し, 他のプログラムとの調整を行いつつ, 受入準備の段階から学生にも参加できるように調整することも検討したい。

ホスト学生の感想として, 参加前から積極的なモチ

ベーションを持っていた者は, 参加後「とてもよかった」と回答しており, また, 参加前は積極的なモチベーションではなかった者が, 参加後には「とてもよかった」または「よかった」と回答していることから, 今回のような機会に参加することで, より語学能力の向上や異文化理解へのモチベーションを高められる可能性があることが示された。自国あるいは長崎市の歴史や文化について学びなおし, それを伝えることにも積極的な態度が見られた一方で, 事前の情報・知識の獲得の必要性も示されたことから, 事前学習の充実とプログラム参加によって得られた知見を学生の視点で記述・蓄積することも重要であると考えられる。これらを次回へ引き継ぎ, 継続的・系統的に交流プログラムを発展させたい。

プロジェクト・チーム内において, 参加した学生にもメリットがあるように, 今回ホストをした学生らを中心に“国際交流サークル”を立ち上げ, 普段から語学習得や国際活動について触れる機会を持つようにし, 様々な国際交流活動に関する事業において中心的役割が果たせるようにしてはどうか, といった意見も出された。晋州保健大学との交流のみならず, 他の異文化理解の機会ならびに海外フィールド研修と合わせて, また事前学習も含めて, 総合的に学習効果を高めるプログラムとして検討したい。

資金については, 今回はタイミングが不適切であったために獲得できなかったが, 今後, 外部資金が獲得できれば, 教員寄付の負担を軽減することができるため, 外部民間団体も含め, 時期を逃さず申請したい。

受入時期については, 本学側としては, 7月は, 学生は試験ならびに課題提出等で時間的制約を受け, 交流プログラムへの参加のモチベーションはあっても実際の参加が困難な状況にある。晋州保健大学側は, 6月20日頃から夏季休暇に入るため, 6月末頃に交流プログラムを企画しても問題ない状況である。次回以降は6月中に受入実施することも含めて検討する。

歴史ある本交流プログラムが異文化理解を深める機会として益々充実し, 更なる交流発展につながることを期待する。

## Exchange program between Jinju Health College and Nagasaki University

Mayumi ONISHI<sup>1</sup>, Rieko NAKAO<sup>1</sup>, Kanako MORIFUJI<sup>1</sup>, Satomi YAMAGUCHI<sup>1</sup>,  
Seiichi YOKOO<sup>1</sup>, Tomoki ORIGUCHI<sup>1</sup>, Taiki KIKUCHI<sup>1</sup>, Hisayoshi NAKAJIMA<sup>1</sup>

1 Department of Nursing, Graduate School of Health Sciences, Nagasaki University

Received 20 February 2009

Accepted 31 March 2009